

— 法政大学 —

2月14日(日) II 日程 英語

解答・解説

- 〔I〕問1 (1) ニ (2) ハ (3) イ (4) ホ (5) ロ (6) イ
 (1) ニは第2音節にアクセント。他は第1音節。
 (2) ハは第3音節にアクセント。他は第1音節。
 (3) イは第3音節にアクセント。他は第1音節。
 (4) ハの下線部は「ウー」、他は「オウ」。 (5) ロの下線部は「イー」、他は「エ」。 (6) ニの下線部は濁らないが、他は濁る。
- 問2 (1) ハ (2) イ (3) ロ (4) イ (5) ハ
 (1) 「1月から全く雨が降っていないとわかった」大過去と **there is** 構文がポイント。本問の **rain** は名詞。
 (2) **make+O+動詞の原形**で「Oに～させる」空欄には動詞の原形が入る。
 (3) **Bill** は **Peter** から借りていた **5,000** 円のうち「先週 **1,000** 円返した」と言っている。その上で **Peter** は **Bill** にさらに **5,000** 円貸すので、合計 **6,000** 円の借金となる。
 (4) **Isabel** の「いくつかほしい?」という問いかけに対して、**Isabel** が「ホント? いいの?」さらに **Isabel** が「全く問題ないよ」といった流れ。ハでも良さそうだが、「今晚の夕食に」という箇所が、続く **Isabel** の「週末に持って来る」とかみ合わなさい。
- 問3 (1) 2→ハ 4→ホ (2) 2→ホ 4→ニ (3) 2→ホ 4→イ (4) 2→ホ 4→ハ
 (1) **people stop on escalators, they stand on one side to let others pass in some cities of Japan.**
on one side は副詞句で **stand** を修飾し「一方の側に立つ」という意味。 **to let** 以下不定詞の副詞的用法。 **let+O+動詞の原形**で「Oに～させる」を踏まえて、 **to let others pass** で「他の人を通すために」という意味。
 (2) **Having even a little cultural knowledge can help people figure out how to behave in other countries.**
help+O+動詞の原形「Oが～するのに役立つ」 **figure out** は「理解する」 **how** は以下不定詞を伴い **figure out** の目的語となっている。 **help people figure out how to behave in other countries** で「人々が他の国でどう振舞うかを理解するのに役立つ」という意味。
 (3) **The director has authority to decide which cases the insurance will cover.**
 不定詞句は **authority** を修飾する形容詞的用法。 **decide** 以下は間接疑問文になっている。「保険でどの事例をカバー補償するのか決める権限」という意味。
 (4) **All we can do is try our hardest in the next exam.**
all we can do は「我々ができるすべてのこと」 **all** と **we** の間に目的格の関係代名詞が省略されている。
- 〔II〕問1 A ロ B ニ C ヘ D イ E ハ
 A **listen to**…で「…を聞く」
 B この場合の **drive** は「追いやる」という意味。
 C **hesitate** 「ためらう」
 D **attack** 「攻撃する」
 E **distinguish** 「識別する」
- 問2 (1) ホ (2) イ (3) ロ (4) ニ (5) ハ
 (1) **installation** 「(機械などの)取り付け、設置」
 (2) **bottom** 「底」
 (3) **button** 「(機械などの)押しボタン」
 (4) **indicator** 「表示装置」
 (5) **the evening before using the machine** 「その機会を使う前の夜に」

- [Ⅲ] 問1 A イ B ホ C リ D ト E ヌ 問2 ロ 問3 イ ニ 問4 ハ 問5 ハ 問6 イ
問7 F ヘ G ロ 問8 (1) F (2) F (3) T (4) F
- 問1 A 空欄を含むセミコロン以下「1990年に関しては、世界の人たちの1%でさえも、インターネットに接続していなかった」という意味になる。
B Figure 1 の United States の 2000 年を表す箇所を参照。
C Figure 1 の World の 2000 年を表す箇所から、インターネットを使っているのは 10% に満たない。空欄を含む文、offline となっている点に注意。
D Figure 1 の United States の 2015 年を表す箇所を参照。
E 空欄を含む文の終わりの部分、Iceland topped the ranking…とあるので、それまで言及された%より高いものを選ばなければならない。
- 問2 Table 1 の 2010 年の China に注目。単位に注意。in thousands あるので、466,396 は実際の数値は 466,396,000。
- 問3 Table 1 の 2005 年の Japan よりも、多い数値の国を選ぶ。
- 問4 Figure 1 の 2015 年の World の箇所を参照。
- 問5 Table 1 より、the greatest number of online user in 2015 が USA であることが分かり、in the previous five years で増えた割合だから、2010 年の 121,475 と 2015 年の 200,593 を踏まえて計算する。
- 問6 第 4 段落の内容から判断する。
- 問7 India と Brazil の両国に関して、Figure 1 のインターネットを使う人の「割合」と Table 1 のインターネットを使う人の「数」を用いて計算する。
- 問8 (1) 第 1 段落の内容から、誤っていると判断する。1960s なら正しい。
(2) 第 1 段落の内容から、誤っていると判断する。“English” scientist Tim Berners-Lee が発明したとある。
(3) Table 1 の 1995 年の箇所から判断する。
(4) Table 1 から India に関しては正しいと言えるが、(4)で some countries とあるように他に該当する国はないので、誤っている。
- [Ⅳ] 問1 A ロ B イ C ヘ D ホ E ハ 問2 ロ ハ 問3 イ 問4 ニ 問5 (1) イ (2) ハ
問6 イ ホ 問7 イ 問8 ニ
- 問1 A from 「…から」
B by oneself 「独力で、自力で」
C open the door to… 「…への門[道]を開く、…への機会を与える」
D impact on… 「…への影響」
E role in… 「…での役割」
- 問2 第 2 段落の内容から判断する。
- 問3 イ以外の選択肢に関しては、全て第 3 段落で述べられている。
- 問4 この場合の biological は「生物を用いた[利用した]」という意味。
- 問5 (1) a host of + 複数名詞 「多数の…」という意味。
(2) preload は「前もってインストールする」という意味。
- 問6 第 10 段落の最終文が、イの内容に反している。また第 7 段落の最終文が、ホの内容に矛盾する。
- 問7 第 8 段落の内容から判断する。
- 問8 下線部の直前までは「悪意で作られた AI」の事例が語られている。これを however 以下「しかしながら…」と反転させて difficult が否定的な意味なので、any more than と組んでいわゆる【クジラの構文】になって「AI も、悪意のある科学者も、どちらも簡単には有害な声明を作れないだろう」と解釈する。
- [Ⅴ] 問1 ハ 問2 ホ 問3 ロ 問4 ロ 問5 ニ 問6 ハ 問7 イ
- 問1 hit は「〈考えなどが〉〈人〉に思い浮かぶ」
- 問2 causative は「原因である、原因として働く」という意味の形容詞。イ～ニのいずれも当てはまらない。
- 問3 下線部の that の指す内容を考える。前の an intentional effort to deceive 「意図的にだまそうとする試み」
- 問4 distorted は「ゆがんだ、ひずんだ」という意味の形容詞。近いのは inaccurate 「不正確な」。

問5 第5段落の後半の内容から判断する。

問6 第2段落の内容を踏まえて考える。

問7 ホが紛らわしいが、**cause and correlation** なら正しいと言えそう。文章全体の内容を踏まえ **Think Twice before You Are Fooled** 「だまされる前によく考えよ」が最も適切であると判断する。

総評

- [I] 問1 発音・アクセント問題。やや易～標準レベル。
問2 短文空欄補充選択問題。会話文は少々苦戦するかもしれません。
問3 語句整序作文問題。(3)がやや難。他は標準レベル。4問中3問の正解を目指したい。
- [II] 問1 易しいが、選択肢の動詞の意味を知っているのが必須条件。
問2 こちらも問1同様、基礎的な語彙力が備わっているかがポイント。
- [III] 英文だけでなくグラフや表をきちんと読み取り、数値の単位も誤らずに解き進めていけるかがポイント。こういった問題になれていない人は、いきなり接すると戸惑うかもしれません。
- [IV] 自然科学のテーマに基づいた読解問題。問1は前置詞を選ぶ問題だが、受験を迎えるまでに読んで英文「量」がモノを言う印象。他は本文中に正解／不正解の根拠を見出せるかがポイント。問8は難しかったかもしれません。
- [V] やや人文科学的な内容の読解問題。英語力そのものよりも、内容を読み取る「読解力(国語力と言っても良いかもしれません)」力が大切。

～全体を通して～

試験時間が90分と長く、その分バラエティーに富んだ出題がなされているという印象です。ただ細かな部分にこだわり過ぎるのも良くありません。

- ・基礎～標準レベルの語彙を定着させること
- ・[I] 問3レベルの整序問題に首尾よく対処できること
- ・[III] のような「数学(算数)的な要素」を含んだ読解問題で得点力を高めること
- ・[V] のような「内容を読み取る力」を要する問題に慣れておくこと

こういった点が大切な軸になってくるものと思われます。